

鹿児島女子短期大学

令和7(2025)年度
FD・SD 活動報告書

FD・SD 委員会

目 次

I. はじめに	1
II. 学生による授業評価	1
III. 授業公開	6
IV. FD 研修会	9
V. SD 研修会	13
VI. 総括	15
VII. 資料編(参考資料)	15

I. はじめに

本報告書は、令和7(2025)年度における本学のファカルティ・ディベロップメント(FD)およびスタッフ・ディベロップメント(SD)に関する取組について、その実施状況と成果を整理し、今後の教育改善および組織運営の向上に資することを目的として作成したものである。

近年、大学においては、教育の質保証の観点から、授業内容および教育方法の継続的な改善が強く求められている。本学においても、学生による授業評価、授業公開、FD研修会等の取組を通じて、教員個々の教育力向上のみならず、組織的な教育改善の推進に努めている。

また、これらの取組においては、教員のみならず職員の参画を促進し、教職協働のもとで教育の質向上を図ることを重視している。

本報告書では、これらの活動の実施状況および成果を総括するとともに、明らかとなった課題を踏まえ、今後の取組の方向性について検討する。

II. 学生による授業評価

(1) 目的

本学における授業評価アンケートは、学生の視点から授業内容・方法および学習環境の実態を把握し、授業改善ならびに教育の質保証を推進することを目的として実施するものである。得られた結果は、各授業担当教員のティーチングポートフォリオ(以下、TP)作成や授業改善に活用するとともに、FD・SD活動における基礎資料として全学的に分析・共有し、組織的な教育力の向上に資する。

(2) 実施概要

実施時期:

前期:6月16日(月)~8月12日(火)

後期:1月9日(金)~2月3日(火)

(参考)各期授業期間外の集中講義・学外実習科目

前期:8月13日(水)~10月7日(火)

後期:3月4日(水)~3月13日(金)

対象:全開講科目

回答率:

・前期:61.3%(対象延べ人数7,570人に対し、回答延べ人数は4,640人)・・・参考資料1

・後期:51.5%(対象延べ人数6,546人に対し、回答延べ人数は3,370人)・・・参考資料2

(参考)各期授業期間外集中講義・学外実習科目

・前期:5%・・・参考資料3

・後期:36.1%・・・参考資料4

※集中講義および学外実習科目については、実施時期および授業形態が通常授業と異なること、ならびに回答率が低いことから、本報告における全体的な分析および比較の対象からは除外し、参考値として扱うこととする。

(3) 結果の概要

①全体結果(今年度の状況)・・・参考資料1・2に基づく分析

《前期》

・**学生の学習態度**:授業の欠席なしが69%と高く、シラバスを「おおむね読んだ」「十分に読んだ」とする学生は62%であった。予習・復習については計53%が実施したと回答していた。

・**授業内容の理解と満足度**:授業内容を「おおむね理解できた」「十分に理解できた」とする学生は合計で87%に達した。

・**教員の指導**:授業準備(94%)や説明の分かりやすさ(90%)について、多くの学生が肯定的な評価(「そう思う」「強くそう思う’)をしていた。

・**総合評価**:授業の総合評価として「良い」が57%、「どちらかというが良い」が35%であり、合計で92%が肯定的に評価していた。

《後期》

・**学生の学習態度**:欠席なしの割合は57%であった。シラバスの確認(計63%)は前期と同水準だが、予習・復習を「おおむねやった」「十分にやった」とする回答は計59%に上った。

・**授業内容の理解と満足度**:内容理解については計88%が肯定的であり、到達目標の達成度についても計89%が達成できたと回答。

・**教員の指導**:教員の説明の分かりやすさ(計91%)や熱意(計93%)など、各項目で高い肯定評価を得ていた。

・**総合評価**:総合評価では「良い」が57%、「どちらかというが良い」が37%となり、計94%の学生が満足している結果となった。

《前期・後期比較分析結果》

後期の授業評価アンケートでは回答率や出席率が低下しているものの、回答した学生の学習実施率(予習・復習)や授業に対する満足度、目標達成度は前期を上回る結果となっている。教員の熱意や説明の適切さといった指導面への評価は通年で安定して高く、学生の最終的な満足度(総合評価)は後期にさらに向上したと言える。

本結果は前期と後期の比較を行っているが、対象科目や履修者が必ずしも同一ではないことから、結果の解釈には一定の限界がある。したがって、数値の差異については参考的に捉える必要がある。前期・後期の比較分析については表1に示す。

表1：前期・後期の比較分析

評価項目	前期結果 (%)	後期結果 (%)	比較と傾向
回答率	61.3	51.5	約10%低下している。
無欠席率	69	57	12%減少し、欠席回数が増える傾向にある。
予習・復習の実施率	53	59	6%向上し、学習意欲の維持がみられる。
内容理解(肯定的評価)	87	88	ほぼ横ばいであるが、わずかに向上。
教員の説明の分かりやすさ	90	91	前期・後期ともに極めて高い水準を維持。
授業の総合評価	92	94	後期の方がさらに満足度が高まっている。

《全体結果に対する考察》

全体として各項目において肯定的評価が多く、本学の授業は一定の水準を維持していることが確認された。特に教員の指導に関する項目は安定して高い評価を示しており、教育実践の質が継続的に担保されていると考えられる。

②達成度に関する結果…参考資料5)に基づく分析

全学科共通(一般教養科目)

【結果】

1年生では、前期にディプロマポリシー(以下、DP)①4.3、DP②4.2、DP③4.0、DP④4.1といずれも高水準であったが、後期にはDP①4.4、DP②4.3、DP④4.2とさらに向上した。なお、DP③は後期に該当科目がなかった。2年生では、前期にDP①・②ともに4.3、DP④4.0であったのに対し、後期はDP②4.5、DP③4.2、DP④4.3と引き続き高い水準を維持している。

【考察と今後の対応】

全体として学年進行に伴い達成度は向上し、特に2年次後期におけるDP②の上昇は、他者との関わりを重視した学習成果の表れと考えられる。一部DPについては該当科目がない時期も見られるが、カリキュラム構成上の特性によるものであり、全体傾向の把握に大きな影響はない。今後は、DP③(地域課題)に関する学習機会の継続的な確保が望まれる。

児童教育学科

【結果】

1年生では、前期はDP①4.0、DP③4.0であったが、後期にはDP①4.2、DP②4.3、DP③4.1と全体的に向上している。2年生では、前期にDP①4.3、DP②4.4、DP③4.2と高

水準であり、後期もすべて 4.3 を維持している。

【考察と今後の対応】

1 年次から 2 年次にかけて段階的な成長が確認され、特に課題解決能力 (DP②) は高い水準で推移している。全体として安定した教育成果が得られており、カリキュラムと実習の連動が有効に機能していると考えられる。今後は、「十分達成」の割合をさらに高めるため、実践的な振り返り機会の充実が求められる。

生活科学科(生活福祉専攻)

【結果】

1 年生では、前期に DP①4.2、DP②4.5、DP③4.7 と高水準であったが、後期には DP①4.4、DP②4.4 と維持される一方、DP③は 3.8 に低下した。2 年生では、前期に DP①3.8、DP②3.9、DP③4.0 とやや低めであったが、後期には DP①・②ともに 4.1 へ回復し、DP③も 3.9 となった。

【考察と今後の対応】

1 年後期における DP③(人間関係形成力・コミュニケーション能力)の低下は、実習等を通じて対人支援の難しさに直面し、自身の課題をより厳しく捉えるようになったことが要因と考えられる。その後 2 年次で回復していることから、この変化は一時的な内省の深化によるものと捉えられる。今後は、この気づきを成長につなげるため、振り返りの機会を充実させることが重要である。

生活科学科(食物栄養学専攻)

【結果】

1 年生では、DP①は前期 4.1、後期 4.1 と安定しており、DP②は後期に 4.4 へ上昇した。一方、DP③は後期 3.7 とやや低下している。2 年生では、前期に DP①4.2、DP②4.0、DP③4.3 であり、後期は DP①4.1、DP②3.9、DP③4.2 と概ね安定している。

【考察と今後の対応】

全体として安定した達成度を示しており、特に協働性や人間性 (DP③) は一定の水準を維持している。一方で、課題解決能力 (DP②) はやや伸び悩みが見られるため、より主体的に課題へ取り組む機会の設計が求められる。今後は、実験・実習と課題解決型学習の接続を一層強化することが有効と考えられる。

教養学科

【結果】

1 年生では、前期に DP①4.2、DP②4.0、DP③4.1 であり、後期には DP①4.3、DP②4.1、DP③4.3 と向上している。2 年生では、前期に DP①4.3、DP②4.3、DP③4.4 と高水準であり、後期も DP①4.3、DP②4.2、DP③4.4 と安定している。

【考察と今後の対応】

入学初期から比較的高い達成度を示し、学年進行に伴い着実に向上している。特に DP③

(社会理解)は一貫して高く、幅広い教養教育の成果が反映されている。今後は、DP②(コミュニケーション能力)のさらなる伸長に向け、対話型・協働型学習の強化が期待される。

《達成度に関する総括》

本分析により、本学における学習の達成度自己評価は、全体として概ね高い水準で維持されており、学年進行に伴う着実な向上が確認された。特に多くの学科・専攻において、2年次後期にかけて到達度が安定または向上していることから、カリキュラムの体系性および教育内容の積み重ねが有効に機能していることが示唆される。

一方で、一部の学科・専攻においては、実習や専門科目の進行に伴い一時的に自己評価が低下する傾向も見られたが、これは学習の深化に伴う自己認識の変化や課題の明確化によるものと考えられ、必ずしも否定的に捉えるべきものではない。むしろ、こうした過程を経て最終的に達成度が回復・向上している点は、本学の教育が内省を促す学習プロセスとして機能していることを示している。

また、一部の DP においては開講科目の特性上、特定の学期に評価対象が存在しないケースも見られたが、これはカリキュラム構造に起因するものであり、全体傾向の解釈においては適切に考慮する必要がある。

今後は、各 DP に対応した学習機会の配置バランスを踏まえつつ、特に課題解決能力や地域理解、対人関係能力といった汎用的能力のさらなる向上を図るため、授業設計および学習支援の工夫を継続することが重要である。あわせて、自己評価の変動を教育改善に活かす観点から、振り返り機会の充実や指導体制の強化を図り、学修成果の可視化と質保証の一層の推進につなげていく必要がある。

③経年変化(2023~2025年度)・・・参考資料6・7に基づく分析

「授業の主要な到達目標に対する達成度(Q20)」を中心に、3年間の変化を分析した結果、全体として高い評価を維持、あるいは微増傾向にあった。

《前期の推移(Q20)》

2023年度 4.1 → 2024年度 4.1 → 2025年度 4.2 と、2025年度にわずかな向上が見られた。

《後期の推移(Q20)》

2023年度 4.2 → 2024年度 4.2 → 2025年度 4.2 と、極めて安定した高い達成度を維持していた。

《授業の総合評価(Q19)》

前期・後期ともに3年間一貫して4.5という非常に高い満足度を維持していた。

《経年変化の考察》

経年変化において大きな低下は見られず、全体として安定した教育の質が維持されていると考えられる。顕著な改善または低下が見られないことから、現行の教育体制は一定の有効性を有している一方、更なる質向上に向けた工夫の余地も示唆される。

(4) 授業評価の総合考察

本学の授業評価アンケートの結果から、授業の理解度、満足度、教員の指導に対する評価はいずれも高水準で推移しており、教育の質は安定的に維持されていることが確認された。特に教員の説明の分かりやすさや熱意に対する評価は通年で高く、学生の総合的な満足度を支える要因となっている。

後期においては出席率や回答率の低下が見られる一方で、予習・復習の実施率や到達目標の達成度、満足度は前期を上回っており、主体的に学習に取り組む学生の学修の質の向上が示唆された。

また、DPに基づく達成度自己評価においても、学年進行に伴う向上や高水準での維持が確認され、カリキュラムが体系的に機能していることがうかがえる。

一方で、回答率の低下や学習態度のばらつきなどの課題も見られ、学習意欲の二極化への対応が求められる。さらに、一部で見られる達成度の一時的低下については、学習の深化に伴う内省の結果と考えられるが、適切な支援が必要である。

経年変化においては大きな変動はなく、安定した教育成果が確認される一方、さらなる質向上に向けた取組の継続が重要である。

(5) 今後の対応

今後は、以下の点を中心に改善を図る必要がある。

- ・アンケート回答率向上のための実施方法の見直し(周知方法・実施時期の工夫)
- ・出席率の低下および学習意欲の二極化への対応(早期把握と個別支援の強化)
- ・DP 達成度評価と授業改善の連動強化
- ・学生の主体的学習(予習・復習)を促進する授業設計の工夫
- ・達成度の振り返り機会の充実による学修成果の可視化と質保証の強化

これらの取組を通じて、学生の学修成果の向上および教育の質保証のさらなる強化を図る。

(6) 限界点

本結果について、前述の通り、前期および後期の比較を行っているが、対象科目や履修者が必ずしも同一ではないことから、単純な時期間比較には一定の限界がある。また、アンケートは回答者の主観に基づくものであり、回答率の低下により全体の意見を十分に反映していない可能性がある点にも留意が必要である。

Ⅲ. 授業公開

(1) 目的

本学における教育の質の向上および授業改善の推進を目的として、教員相互による授業公開を実施した。本取組は、他教員の授業を参観することにより新たな気づきを得るとともに、参観後の意見交換や助言を通じて授業改善につなげることを意図している。さらに、教員間の情報共有やディスカッションの活性化を図り、組織的なFD活動の充実に資することを目的とする。

(2) 実施概要

全教員を対象として授業公開を実施した。公開期間中は、原則としてすべての授業を公開対象とし、教員が相互に自由に参観できる形式とした。

参観に際しては、事前に担当教員へ連絡のうえ実施することとし、実習や休講等により公開が困難な授業については、時間割上で明示する運用とした。また、参観は原則として授業の開始から終了までとしつつ、複数授業の参観も可能とするなど、柔軟な参加形態を認めた。

参観後は、オンラインフォームを用いた「授業参観報告・・・参考資料8」の提出を求め、授業運営や指導方法、学生の反応等に関する気づきや意見を収集した。提出された報告は授業担当教員へフィードバックされるとともに、専任教員については TP における自己評価・振り返りにも活用する仕組みとした。

《実施期間》

令和7年11月4日(火)～12月19日(金)

(参観報告提出期限:令和7年12月26日(金))

《実施方法》

対象:全教員(非常勤講師も含む)

実施形式:自由参観型(事前連絡制)

公開範囲:原則すべての授業(公開不可授業は明示)

フィードバック:オンラインフォームによる参観報告提出

《活用について》

参観報告は授業担当者へフィードバックされるとともに、TPにおける自己評価および振り返りに活用される仕組みとした。これにより、教員が自身の授業を客観的に見直し、課題の明確化および改善策の検討を通じて、継続的な授業改善につなげる PDCA サイクルの構築を図っている。また、参観した教員にとっても、他者の授業実践から得られた知見を自らの授業改善に活用する機会となっている。

(3) 実施結果

《参観状況》

- ・参観実施件数(=報告書提出件数) 38件
- ・参観教員数 29名
- ・参観授業科目数 30科目・・・参考資料9

《報告書内容》

授業公開期間中に提出された授業参観報告から、以下の傾向が確認された。

まず、参観対象科目は、専門科目、一般教養科目、実習・演習系科目など多岐にわたり、幅広い授業形態が共有された。参観報告においては、講義形式のみならず、体験型授業、外部

講師を招いた授業、学生主体の発表形式の授業など、多様な教育実践が観察された。

授業参観報告の内容としては、主に以下の観点に関する記述が多く見られた。

- ・授業内容の工夫(実務経験の活用、具体例の提示など)
- ・学生参加を促す工夫(発問、指名、双方向性)
- ・授業構成の明確さ(学習目標の提示、復習の活用)
- ・教材の工夫(スライド・テキスト連動、データ活用)
- ・学生の反応・学習態度

また、学生が主体的に参加している様子や、興味関心を高める授業設計に対する評価が多く記載されていた。

(4) 成果

本取組により、以下のような成果が得られた。

まず、教員間で授業実践を共有する機会が創出され、各教員が自身の授業を振り返る契機となった。特に、他分野の授業を参観することで、新たな視点や気づきを得たという記述が多く見られた。

また、以下のような具体的な教育改善に資する知見の共有が確認された。

- ・学生の理解を深めるための説明方法や事例提示
- ・学生とのコミュニケーションを重視した授業運営
- ・学習意欲を高めるための問いかけや課題設定
- ・実務や社会との接続を意識した授業内容

さらに、体験型授業やアクティブラーニング型授業の有効性が再認識され、教育方法の多様化に対する理解促進につながった。加えて、外部講師の活用や実践的授業の導入が、学生のモチベーション向上に寄与していることも示唆された。

(5) 課題と今後の対応

授業公開の実施を通じて一定の成果が得られた一方で、以下の課題が明らかとなった。

第一に、学生の基礎学力や習熟度の差に起因する授業運営上の課題である。特に必修科目においては、理解度に応じた指導の工夫が求められており、個々の学生の状況に配慮した授業設計の必要性が指摘された。

第二に、体験型授業における実施体制上の課題である。運営負担や時間的制約に加え、適切なグループ人数や教員配置など、授業の質を担保するための体制整備が求められている。

第三に、授業公開の運営方法に関する課題である。現在は後期を中心に実施しているが、前期における授業改善の機会が十分とは言えず、参観報告においても、より早期の段階から授業公開を実施することの有効性が指摘された。

これらの課題を踏まえ、今後は以下の点を中心に改善を図る。

- ・習熟度に応じた授業設計の検討
- ・体験型授業における実施方法および運営体制の最適化
- ・授業参観報告の組織的な共有と活用(FD研修等への展開)
- ・授業公開の実施時期の見直し(前期への拡大や通年実施の検討)

これらの取組を通じて、授業改善の機会をより効果的に確保するとともに、教育の質向上を一層推進していく必要がある。

IV. FD 研修会

(1) 実施の目的

FDとは、教員が授業内容および教育方法を改善・向上させるための組織的な取組の総称であり(中央教育審議会, 2008)、大学においては、教育の質の向上を図るため、授業の内容および方法の改善に向けた組織的な研修および研究を実施することが求められている(大学設置基準第11条第2項)。

本学においては、これらの趣旨を踏まえ、教員の教育力向上および授業改善の推進を目的としてFD研修会を実施している。加えて、教育の質向上には教職員の連携が不可欠であることから、研修会は教員のみならず職員も参加可能とし、教職協働による教育改善の推進を図っている。

本研修を通じて、教育実践に関する知見の共有や課題の把握を行い、個々の授業改善および組織的な教育の質保証につなげることを目的とする。

(2) 実施概要

	第1回 FD 研修会	第2回 FD 研修会
テーマ	ティーチング・ポートフォリオ(TP)の書き方と利活用— 教育改善につなげる実践的アプローチ —	生成 AI 時代の大学教育～学生の思考を育てる ICT 活用とは～
目的	TP を活用して授業改善のヒントを得るとともに、教員同士の交流を通じて教育力向上につなげる	生成 AI 時代における大学教育の役割を再確認し、学生の思考力を育てる ICT 活用の在り方や考え方を共有する
日時	令和7年9月4日(木) 10:00～11:30	令和8年3月5日(木) 13:00～14:30
場所	南館6階 601 教室	本館4階 402 教室
対象	全教職員(演習以降は職員は希望制)	全教職員
内容	TP 作成の講義および、学生アンケートの課題解決に向けた演習	生成 AI に関する講義および、AI 時代の教育の在り方に関する演習

(3) 第1回 FD 研修会

《参加状況と評価》

出席率は58%(39名/67名)であった。内訳は、教員83%(35名/42名)、職員16%(4名/25名)であった。学科別の教員出席率は、教養学科が100%、生活科学科が93%、児童教育学科が70%となり、全教員平均で83%と高い出席率を記録した。

《結果》

本研修の実施後アンケートによる評価の結果、回答した教員の100%が「TPが授業改善に役立つと実感できた」（とても実感:50%、まあまあ実感:50%）と回答しており、極めて高い満足度が得られた。

本研修では、FD・SD委員である倉重教員による講義が行われ、TPの作成方法に加え、TPを単なる記録にとどめず、授業改善に活用するための具体的な視点について、分かりやすく解説がなされた。特に、授業評価アンケートの結果を踏まえた振り返りを通じて課題を明確化し、改善につなげるプロセスが示されたことは、参加者の理解を深める上で有意義であった。参加者からも、TPの実践的活用に関する理解が深まったとの意見も見られた。



演習（グループワーク）は、授業評価アンケート結果を踏まえて各教員が作成したTPをもとに、授業上の課題および改善策について検討を行った。その内容を整理した結果、主に5つの観点に集約された。



第一に、授業進行および説明方法に関する課題である。TPにおいては、スライドの進行速度や音声の聞き取りにくさ等が課題として整理されており、これに対する改善策として、配布資料への参照ページの明記やマイクの積極的な活用が提案された。

第二に、学生の学習態度に関する課題である。私語や集中力の低下といった状況に対しては、授業内に意図的な活動（ワーク等）を組み込むことや、私語を授業内容に関連した対話へと転換する工夫が有効であるとの意見が共有された。

第三に、評価の公平性に関する課題である。特にグループ活動における貢献度の差が問題として挙げられ、ルーブリック評価の導入や学生同士による相互評価の活用が改善策として提示された。

第四に、学生の習熟度差への対応である。理解度のばらつきに対応するため、レベルに応じた課題設定の必要性が指摘されるとともに、平均値だけでなく中央値や外れ値といった多面的なデータの捉え方の重要性が共有された。

第五に、授業評価アンケートの活用方法に関する課題である。TPへの反映を通じて課題を整理する一方で、実施時期の制約によるフィードバックの遅れが指摘され、学期途中での簡易的な意見収集や、試験・レポートにおける自由記述の活用など、柔軟な情報収集手法の導入が提案された。



以上より、授業評価アンケート結果をTPに反映し、教員間で検討を行うプロセスが、授業改善に向けた実践的知見の共有につながることを示唆された。

《考察》

本研修では、授業評価アンケート結果を TP に反映し、それをもとに教員間で課題および改善策を検討するプロセスを通じて、授業改善に向けた具体的かつ実践的な知見の共有が促進されたと考えられる。特に、授業進行、学生対応、評価方法、習熟度差への対応など、授業運営における多面的な課題が整理され、それぞれに対する具体的な改善策が提示された点は有意義である。

また、TP を媒介とすることで、個々の教員の経験や暗黙知が可視化され、教員間で共有可能な知見として整理されたことは、組織的な FD の推進という観点からも重要である。さらに、グループワークを通じた意見交換により、多様な視点からの検討が行われ、単独では得られにくい新たな気づきや改善の方向性が導出されたことが示唆される。

以上より、本研修は、授業評価アンケートの結果を単なる評価にとどめず、TP を活用した振り返りおよび教員間の対話を通じて、継続的な授業改善へとつなげる有効な取組であったと考えられる。

(4) 第 2 回 FD 研修会 (3 月)

《参加状況と評価》

出席率は 90 % (61 名 / 68 名) であった。内訳は、教員 88 % (38 名 / 43 名)、職員 92 % (23 名 / 25 名) であった。学科別の教員出席率は、児童教育学科が 100 %、生活科学学科が 79 %、教養学科が 78 % となり、全教員平均で 88 % と高い出席率を記録した。

《結果》

本研修の実施後アンケートによる評価の結果、研修目的の達成度については、回答した教職員の 100 % が「達成できた」(十分達成できた 39 %、まあまあ達成できた 61 %) と回答しており、研修の目的は概ね達成されたと判断される。

講義内容に関しては、まず教養学科の村田教員による講義において、生成 AI の基礎知識からプロンプトエンジニアリングに至るまでの専門的内容が平易に解説された点が高く評価された。特に、「学生の批判的思考力をいかに養うか」という観点は、単なる技術活用にとどまらず、大学教育の本質に関わる視点として、教員の意識変容を促す契機となったことが示唆された。



また、児童教育学科の青木教員による講義では、情報倫理や学内ガイドラインに加え、事務および授業運営における具体的な ICT 活用事例が提示されたことにより、実務レベルでの理解が深化した。AI の利便性とリスクの双方を整理した内容は、参加者の心理的ハードルを低減し、実践的活用への意欲を高める要因となったと考えられる。

さらに、演習(グループワーク)においては、共有スライドを活用した情報交換を通じて、学科の枠を越えた知見の共有が図られ、その有効性が確認された。特に、「生成 AI 利用を前提とした評価手法」や「学生のリテラシー教育」といった、各学科に共通する教育課題が顕在化し、

多角的な議論が展開された。他学科の実践事例に触れることは、自身の教育実践を相対化する契機となり、メタ認知的な振り返りを促進する機会として機能した。

一方で、演習に関しては、「議論時間(30分)の不足」を指摘する意見もあり、より深化した検討のためには時間配分の見直しが必要であることが明らかとなった。また、参加者の関心が、操作方法等の基礎的理解から、具体的な教育効果の検証へと移行しつつある傾向も確認された。

以上より、本研修は、生成 AI をめぐる知識の習得にとどまらず、教育実践への応用および教員間の知見共有を促進する場として、有効に機能したと評価できる。

《考察》

本研修は、生成 AI という新たな技術の導入を契機として、大学教育の在り方を再考する機会となった。特に、ICT を活用して学生の理解度や反応を可視化し、それを授業改善へと接続する視点が共有されたことは、今後の教育実践において重要な意義を持つと考えられる。

また、講義と演習を組み合わせた構成により、理論的理解と実践的応用の双方が促進され、教員の ICT 活用に対する心理的障壁の低減と実践意欲の向上が図られた。さらに、学科横断的なグループワークは、個別の教育実践にとどまらない組織的な教育改善の視点を醸成するものとして有効であった。

加えて、副学長から示された ICT ヘルプデスクの活用方針は、研修で得られた知見を日常的な教育実践へと接続する仕組みとして重要である。教職員が ICT 活用に関する課題や疑問を随時相談できる体制を整備し、その内容を FD・SD 研修会等で共有することにより、個別の課題解決を組織的な教育改善へと展開するサイクルの構築が期待される。これは、単発の研修にとどまらない継続的な教育力向上の基盤として位置づけられる。

(5) 成果

本年度の FD 研修会は、TP の活用および生成 AI・ICT の利活用をテーマとして実施され、教員の教育実践に対する理解の深化と授業改善への意識向上に寄与した。

第 1 回研修会では、授業評価アンケート結果を TP に反映し、それをもとに教員間で課題と改善策を検討することにより、授業改善に向けた具体的かつ実践的な知見の共有が図られた。特に、授業運営や評価方法、学生対応など多面的な課題が整理され、組織的な FD の推進に資する成果が得られた。

第 2 回研修会では、生成 AI および ICT 活用に関する理解が深まり、教育実践への応用に向けた意識の向上が確認された。また、学科横断的なグループワークを通じて、共通の教育課題が可視化されるとともに、教員間の情報共有および相互学習の機会が創出された。

さらに、ICT ヘルプデスクの活用方針が共有されたことにより、研修で得られた知見を日常的な教育実践へと接続する基盤が示された点も重要である。これにより、個別の課題対応を組織的な教育改善へと展開する仕組みの構築が期待される。

以上より、本年度の FD 研修会は、個々の教員の教育力向上にとどまらず、組織的な教育改善を推進する上で有効に機能したと評価できる。

(6) 課題と今後の対応

一方で、以下の課題も明らかとなった。

第一に、参加状況に関する課題である。第 1 回研修会においては教員の参加率は高かったものの、職員の参加が限定的であった。一方、第 2 回では職員の参加が増加しており、教職協働の観点からも、継続的な参加促進が求められる。

第二に、研修内容および運営に関する課題である。特にグループワークにおいては、議論時間の不足が指摘されており、より深化した検討を行うための時間配分やプログラム設計の見直しが必要である。また、参加者の関心が基礎的理解から実践的活用および教育効果の検証へと移行していることから、研修内容の段階的高度化も求められる。

第三に、研修成果の実践への接続に関する課題である。研修で得られた知見を個々の授業改善へ確実に反映させるためには、継続的な支援体制の整備が重要である。

これらの課題を踏まえ、今後は以下の取組を推進する。

- ・教職員双方の参加促進に向けた運営方法の工夫
- ・グループワークの時間確保および内容の高度化
- ・TP を活用した授業改善サイクルの強化
- ・ICT ヘルプデスクの積極的活用と、相談内容の FD・SD 研修会への還元による組織的な知見共有

これらの取組を通じて、研修で得られた知見を継続的な教育改善へとつなげ、教育の質向上を一層推進していく必要がある。

V. SD 研修会

(1) 実施概要

本学では、教職員の資質向上および大学運営の適正化を目的として、SD 研修会を実施した。令和 7 年度は、学内外講師による講義形式を中心に、コンプライアンス、教育支援、情報セキュリティ、大学運営等に関する内容について、年間を通じて複数回実施された。

(2) 各研修会の実施内容

① 短大の現況に関する説明(4 月)

学園本部の理事長および事務局長より、本学および学園全体の現況に関する説明が行われた。具体的には、令和 7 年度入学者数および在籍者数の見込み、短期大学における入学者数・現員数の推移、教育活動収支の状況などの財務データが提示された。

また、学園全体の部門別収支予算を踏まえた経営状況の説明に加え、本学の就職率の推移についても報告がなされ、教育成果の一端が示された。さらに、鹿児島県における 18 歳人口の将来推計や高校 3 年生の進路状況に関するデータをもとに、今後の学生募集を取り巻く環境についての分析が行われた。

これらの資料に基づき、本学の現状および将来的な課題について理解を深めるとともに、教育・経営の両面からの視点を共有する機会となった。

② ブランディング研修会(8月)

全国調査データをもとに、本学の教育・学生支援に関する現状分析が行われた。その後、ブランドの考え方に関する講義および「建学の精神」をテーマとしたグループワークを実施した。議論を通じて得られた意見を基に、ブランディングに向けた検討体制の構築(チーム結成)につながった。

③ コンプライアンス研修会(9月)

外部講師(弁護士)を招き、ハラスメントに関する研修を実施した。本研修では、従来の事例理解に加え、ハラスメント該当性を判断するための考え方や判断基準の理解に重点が置かれた。対立する利益の把握や時代背景を踏まえた判断の重要性が示され、教職員が主体的に行動を見直す視点が提示された。

④ コンプライアンス研修会(10月)

障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の義務化について、本学の支援体制や申請手続きとともに解説が行われた。合理的配慮の考え方や実施における留意点(教育の本質維持、公平性の確保等)について理解を深める機会となった。

⑤ コンプライアンス研修会(12月)

研究不正(捏造・改ざん・盗用)および不正使用に関する研修を実施した。不正発生時の組織的影響やリスクについて具体的に示されるとともに、不正の背景要因として心理的・社会的・制度的側面が指摘された。防止策として、コミュニケーションの活性化および組織環境の整備の重要性が共有された。

⑥ コンプライアンス研修会(1月)

情報セキュリティをテーマに、近年のサイバー攻撃やフィッシング詐欺の動向、生成 AI 利用に伴うリスクについて説明が行われた。個人情報・機密情報の取扱いに関する注意点や具体的な対策が示され、教職員の危機管理意識の向上が図られた。

(3) 成果

本年度の SD 研修会は、大学運営、教育支援、コンプライアンス、情報管理等、多様なテーマを扱うことで、教職員の基礎的知識の向上および意識醸成に寄与した。特に、外部講師による専門的講義や、法改正・社会動向に対応した内容の提供により、実務に直結する理解の深化が図られた。

また、ブランディング研修会においては、グループワークを通じて教職員間の意見共有が行われ、組織的な取組へと発展した点は特筆すべき成果である。

(4) 課題と今後の対応

一方で、多くの研修が講義形式で実施されており、参加者の主体的な関与や理解度の把握、研修効果の検証が十分とは言えない状況が見られた。また、事後評価が未実施の回もあ

り、研修の改善サイクル(PDCA)の構築が課題である。

今後は、

- ・研修後アンケートの実施による効果測定
- ・グループワーク等を取り入れた双方向型研修の導入
- ・研修内容のFD・SD間での共有
- ・研修成果の業務・教育への活用状況の把握

などを通じて、SD研修の質的向上を図る必要がある。

VI. 総括

本報告書では、令和7年度に実施した授業評価、授業公開、FD研修会およびSD研修会の取組を通じて、本学における教育および大学運営の質が概ね良好に維持されていることが確認された。特に、授業評価やFD研修会を通じた教員の授業改善への取組は、学生の満足度や達成度の向上に寄与していると考えられる。

また、SD研修会においては、コンプライアンス、合理的配慮、情報セキュリティ、大学運営およびブランディング等に関する理解の深化が図られ、教職員の基礎的資質の向上および組織的な意識共有に一定の成果が認められた。

一方で、学生の学習状況の多様化やアンケート回答率の低下に加え、研修成果の実践への接続や効果検証の不足といった課題も明らかとなった。特にSD研修においては、講義形式中心の実施や事後評価の未整備など、研修効果の可視化および改善サイクルの確立が今後の課題である。

今後は、TPや授業公開、ICTヘルプデスクの活用を通じて、FD・SDの取組を有機的に連動させ、教育改善および業務改善を一体的に推進する体制の強化が求められる。

本学としては、教職協働のもと、教育の質保証および学生の学修成果の向上に加え、持続可能な大学運営の実現に向けた取組を一層推進していく。

VII. 資料編(参考資料)

- 1) 2025年度前期授業期間授業評価アンケート集計結果
- 2) 2025年度後期授業期間授業評価アンケート集計結果
- 3) 2025年度前期集中講義・学外実習期間授業評価アンケート結果
- 4) 2025年度後期集中講義・学外実習期間授業評価アンケート結果
- 5) 2025年度学習の達成度自己評価
- 6) 2023~2025年度授業評価アンケート比較表
- 7) 2023~2025年度授業評価アンケート比較表
- 8) 2025年度授業公開週間参観記録(項目の例示)
- 9) 2025年度参観授業科目一覧

個人情報	授業関連	授業支援	QA/アンケート/掲示	学生支援	キャリア	ホーム メール設定 サイトマップ ログアウト	システム管理
------	------	------	-------------	------	------	------------------------------	--------

授業評価一覧 > 授業評価結果参照

戻る

期間：2025/06/16（月）00:00～2025/08/12（火）23:59

対象人数(延べ数)：7570人 回答人数(延べ数)：4640人 回答率 61.3%

※【令和7年度前期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて…

1. あなたは授業を何回欠席しましたか。(必須)

欠席なし	1回	2回	3回	4回以上	比率	人数
					69%	3181人
					20%	933人
					8%	361人
					2%	108人
					1%	57人

2. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。(必須)

全く読んでいない	あまり読んでいない	どちらともいえない	おおむね読んだ	十分に読んだ	比率	人数
					5%	226人
					14%	663人
					19%	862人
					50%	2320人
					12%	569人

3. あなたは予習や復習を十分にしましたか。(必須)

全くしていない	あまりしていない	どちらともいえない	おおむねやった	十分にやった	比率	人数
					5%	213人
					17%	808人
					24%	1131人
					39%	1829人
					14%	659人

4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。(必須)

全くできていない	あまりできていない	どちらともいえない	おおむねできた	十分にできた	比率	人数
					0%	17人
					2%	86人
					11%	504人
					60%	2787人
					27%	1246人

5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。(必須)

悪い	どちらかという悪い	どちらともいえない	どちらかという良い	良い	比率	人数
					0%	3人
					1%	32人
					13%	585人
					46%	2138人
					41%	1882人

授業について…

6. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。(必須)

全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う	比率	人数
					0%	6人
					1%	28人
					16%	757人
					51%	2346人
					32%	1503人

7. 授業はよく準備されていましたか。(必須)

全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う	比率	人数
					0%	4人
					0%	19人
					5%	248人
					46%	2127人
					48%	2242人

8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。(必須)

全くそうは思わない	そうは思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う	比率	人数
					0%	7人
					1%	27人
					7%	326人
					46%	2150人
					46%	2130人

9. 教員の説明は分かりやすかったですか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	16人
そうは思わない	1%	61人
どちらともいえない	8%	376人
そう思う	44%	2033人
強くそう思う	46%	2154人
10. 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	16人
そうは思わない	1%	48人
どちらともいえない	9%	403人
そう思う	46%	2138人
強くそう思う	44%	2035人
11. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	22人
そうは思わない	3%	117人
どちらともいえない	12%	542人
そう思う	44%	2034人
強くそう思う	41%	1925人
12. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	19人
そうは思わない	2%	78人
どちらともいえない	7%	345人
そう思う	40%	1876人
強くそう思う	50%	2322人
13. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	14人
そうは思わない	1%	37人
どちらともいえない	7%	344人
そう思う	44%	2060人
強くそう思う	47%	2185人
14. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	15人
そうは思わない	1%	46人
どちらともいえない	6%	296人
そう思う	45%	2102人
強くそう思う	47%	2181人
15. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	7人
そうは思わない	0%	18人
どちらともいえない	6%	286人
そう思う	41%	1924人
強くそう思う	52%	2405人
16. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	12人
そうは思わない	1%	32人
どちらともいえない	6%	278人
そう思う	43%	1972人
強くそう思う	51%	2346人
17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	8人
そうは思わない	0%	20人
どちらともいえない	6%	299人
そう思う	44%	2022人
強くそう思う	49%	2291人
18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	11人
そうは思わない	1%	34人
どちらともいえない	6%	279人
そう思う	46%	2129人
強くそう思う	47%	2187人
19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須)	比率	人数
悪い	0%	6人
どちらかという悪い	1%	30人

どちらともいえない		7%	307人
どちらかという和良好的		35%	1645人
良い		57%	2652人

2.0. この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。（必須）

	比率	人数
ほとんど達成できなかった	0%	7人
あまり達成できなかった	1%	49人
どちらともいえない	12%	559人
おおむね達成できた	57%	2629人
十分達成できた	30%	1396人

2.1. この授業で良かったと思うことを入力してください。

2.2. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。

2.3. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。

これ以降の設問には児童教育学科・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の方が対象となる授業のアンケートでのみ回答してください。

※対象授業

■児童教育学科

- 幼稚園教育実習Ⅱ指導
- 保育所実習Ⅱ指導
- 施設実習Ⅰ指導
- 施設実習Ⅱ指導

■生活福祉専攻

- 生活支援技術A
- 経管栄養演習
- 生活支援技術C
- 生活支援技術（食・衣）

■食物栄養学専攻

- 調理学実習基礎
- 食品学実験
- 調理学実習Ⅱ
- 解剖生理学実験
- 給食管理実習Ⅰ
- 給食実務演習Ⅰ
- 栄養指導実習Ⅰ
- 臨床栄養学実習
- 食品加工学実習

2.4. 助手・副手は、授業が円滑に行われるよう、担当教員をサポートしていませんか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	4人
そうは思わない	1%	6人
どちらともいえない	12%	49人
そう思う	35%	139人
強くそう思う	51%	203人

2.5. 助手・副手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	3人
そうは思わない	1%	5人
どちらともいえない	13%	49人
そう思う	33%	130人
強くそう思う	52%	203人

2.6. 実験・実習に使う試薬・食材は漏れなく準備されていましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	2人
そうは思わない	1%	4人
どちらともいえない	13%	45人
そう思う	34%	113人
強くそう思う	51%	173人

2.7. 実験・実習に使う機械・物品等が故障・破損した場合に、助手・副手は適切に対応しましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	1人

そうは思わない		1%	3人
どちらともいえない		14%	47人
そう思う		33%	111人
強くそう思う		52%	173人

28. わからないことがあったとき、助手・副手は寄り添って「わかった」を引き出してくれましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	2人
そうは思わない	1%	3人
どちらともいえない	12%	45人
そう思う	35%	129人
強くそう思う	51%	188人

29. 授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	4人
そうは思わない	2%	9人
どちらともいえない	12%	45人
そう思う	33%	125人
強くそう思う	51%	191人

集計結果CSV出力

授業評価一覧 > 授業評価結果参照

戻る

期間：2026/01/09 (金) 09:30~2026/02/03 (火) 23:59

対象者(延べ数)：6546人 回答者(延べ数)：3370人 回答率 51.5%

※【令和7年度後期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて…

質問	回答	比率	人数
1. あなたは授業を何回欠席しましたか。(必須)	欠席なし	57%	1934人
	1回	23%	759人
	2回	11%	377人
	3回	7%	231人
	4回以上	2%	69人
2. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。(必須)	全く読んでいない	5%	155人
	あまり読んでいない	13%	438人
	どちらともいえない	19%	649人
	おおむね読んだ	49%	1667人
	十分に読んだ	14%	461人
3. あなたは予習や復習を十分にしましたか。(必須)	全くしていない	4%	126人
	あまりしていない	13%	435人
	どちらともいえない	24%	817人
	おおむねやった	43%	1464人
	十分にやった	16%	528人
4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。(必須)	全くできていない	0%	11人
	あまりできていない	2%	56人
	どちらともいえない	10%	332人
	おおむねできた	60%	2035人
	十分にできた	28%	936人
5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。(必須)	悪い	0%	6人
	どちらかという悪い	1%	27人
	どちらともいえない	12%	415人
	どちらかという良い	47%	1583人
	良い	40%	1339人

授業について…

質問	回答	比率	人数
6. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。(必須)	全くそうは思わない	0%	6人
	そうは思わない	0%	14人
	どちらともいえない	14%	479人
	そう思う	51%	1717人
	強くそう思う	34%	1154人
7. 授業はよく準備されていましたが。(必須)	全くそうは思わない	0%	2人
	そうは思わない	0%	16人
	どちらともいえない	5%	165人
	そう思う	46%	1534人
	強くそう思う	49%	1653人
8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。(必須)	全くそうは思わない	0%	6人
	そうは思わない	1%	30人
	どちらとも言えない	7%	220人
	そう思う	46%	1547人
	強くそう思う	46%	1567人
9. 教員の説明は分かりやすかったですか。(必須)	全くそうは思わない	0%	8人
	そうは思わない	1%	44人
	どちらともいえない	8%	262人
	そう思う	44%	1485人
	強くそう思う	47%	1571人
10. 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。(必須)	全くそうは思わない	0%	8人
	そうは思わない	1%	47人
	どちらともいえない	8%	253人

そう思う		46%	1555人
強くそう思う		45%	1507人

1 1. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	1%	19人
そうは思わない	2%	67人
どちらともいえない	9%	320人
そう思う	45%	1527人
強くそう思う	43%	1437人
1 2. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	7人
そうは思わない	1%	47人
どちらともいえない	6%	194人
そう思う	43%	1450人
強くそう思う	50%	1672人
1 3. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	8人
そうは思わない	1%	25人
どちらともいえない	6%	197人
そう思う	47%	1572人
強くそう思う	47%	1568人
1 4. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	8人
そうは思わない	1%	36人
どちらともいえない	6%	197人
そう思う	46%	1549人
強くそう思う	47%	1580人
1 5. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	4人
そうは思わない	0%	11人
どちらともいえない	6%	199人
そう思う	43%	1458人
強くそう思う	50%	1698人
1 6. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	6人
そうは思わない	0%	15人
どちらともいえない	5%	184人
そう思う	45%	1517人
強くそう思う	49%	1648人
1 7. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	4人
そうは思わない	0%	14人
どちらともいえない	5%	185人
そう思う	45%	1505人
強くそう思う	49%	1662人
1 8. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。 (必須)	比率	人数
全くそうは思わない	0%	3人
そうは思わない	0%	13人
どちらともいえない	5%	181人
そう思う	47%	1576人
強くそう思う	47%	1597人
1 9. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須)	比率	人数
悪い	0%	7人
どちらかという悪い	1%	20人
どちらともいえない	6%	201人
どちらかという良い	37%	1235人
良い	57%	1907人

2 0. この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。 (必須)	比率	人数
ほとんど達成できなかった	0%	4人
あまり達成できなかった	1%	19人
どちらともいえない	11%	361人
おおむね達成できた	55%	1857人
十分達成できた	34%	1129人

2 1. この授業で良かったと思うことを入力してください。

2 2. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。

2 3. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。

これ以降の設問には児童教育学科・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の方が対象となる授業のアンケートでのみ回答してください。

※対象授業

■児童教育学科

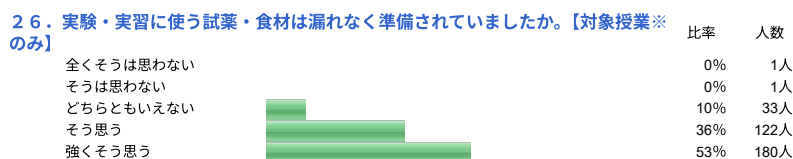
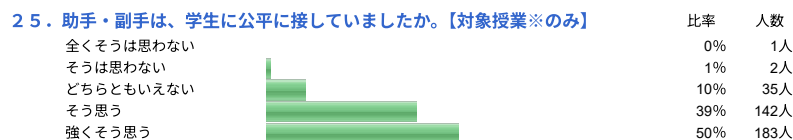
幼稚園教育実習Ⅰ指導
保育所実習Ⅰ指導
子どもの健康と安全
乳児保育Ⅱ

■生活福祉専攻

生活支援技術B
喀痰吸引演習
生活支援技術（家事）

■食物栄養学専攻

食品衛生学実験
栄養指導実習Ⅱ
応用栄養学実習
給食管理実習Ⅱ
給食実務演習Ⅱ
実践調理学実習
生化学実験
調理学実習Ⅰ
教職実践演習（栄養教諭）



[集計結果CSV出力](#)

個人情報

授業関連

授業支援

QA/アンケート/掲示

学生支援

キャリア

ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト

システム管理

授業評価一覧 > 授業評価結果参照

戻る

期間：2025/08/13（水）00:00～2025/10/07（火）23:59

対象人数(延べ数)：545人 回答人数(延べ数)：27人 回答率 5.0%

※【令和7年度前期】授業評価アンケート_実習・集中講義

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて…

1. あなたは授業を何回欠席しましたか。 (必須)

	比率	人数
欠席なし	100%	27人
1回	0%	0人
2回	0%	0人
3回	0%	0人
4回以上	0%	0人

2. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。 (必須)

	比率	人数
全く読んでいない	4%	1人
あまり読んでいない	7%	2人
どちらともいえない	37%	10人
おおむね読んだ	30%	8人
十分に読んだ	22%	6人

3. あなたは予習や復習を十分にしましたか (必須)

	比率	人数
全くしていない	0%	0人
あまりしていない	7%	2人
どちらともいえない	11%	3人
おおむねやった	41%	11人
十分にやった	41%	11人

4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。 (必須)

	比率	人数
全くできていない	0%	0人
あまりできていない	0%	0人
どちらともいえない	4%	1人
おおむねできた	48%	13人
十分にできた	48%	13人

5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。 (必須)

	比率	人数
悪い	0%	0人
どちらかという悪い	0%	0人
どちらともいえない	7%	2人
どちらかという良い	33%	9人
良い	59%	16人

授業について…

6. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。 (必須)

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	15%	4人
そう思う	37%	10人
強くそう思う	48%	13人

7. 授業はよく準備されていましたか。 (必須)

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	7%	2人
そう思う	41%	11人
強くそう思う	52%	14人

8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。 (必須)

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人

そうは思わない		0%	0人
どちらとも言えない		11%	3人
そう思う		37%	10人
強くそう思う		52%	14人

9. 教員の説明は分かりやすかったですか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		11%	3人
そう思う		37%	10人
強くそう思う		52%	14人

10. 発見や感動などがあり、興味を持てる授業でしたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		11%	3人
そう思う		33%	9人
強くそう思う		56%	15人

11. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		4%	1人
どちらともいえない		15%	4人
そう思う		44%	12人
強くそう思う		37%	10人

12. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		11%	3人
そう思う		41%	11人
強くそう思う		48%	13人

13. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		15%	4人
そう思う		41%	11人
強くそう思う		44%	12人

14. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		15%	4人
そう思う		41%	11人
強くそう思う		44%	12人

15. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		7%	2人
そう思う		30%	8人
強くそう思う		63%	17人

16. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		11%	3人
そう思う		33%	9人
強くそう思う		56%	15人

17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人
どちらともいえない		19%	5人
そう思う		41%	11人
強くそう思う		41%	11人

18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。 (必須)

		比率	人数
全くそうは思わない		0%	0人
そうは思わない		0%	0人

どちらともいえない		7%	2人
そう思う		44%	12人
強くそう思う		48%	13人

19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須)

	比率	人数
悪い	0%	0人
どちらかという悪い	0%	0人
どちらともいえない	7%	2人
どちらかという良い	26%	7人
良い	67%	18人

20. この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。 (必須)

	比率	人数
ほとんど達成できなかった	0%	0人
あまり達成できなかった	0%	0人
どちらともいえない	11%	3人
おおむね達成できた	37%	10人
十分達成できた	52%	14人

21. この授業で良かったと思うことを入力してください。

22. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。

23. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。

これ以降の設問には児童教育学科・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の方が対象となる授業のアンケートでのみ回答してください。

※対象授業

■児童教育学科

- 幼稚園教育実習Ⅱ指導
- 保育所実習Ⅱ指導
- 施設実習Ⅰ指導
- 施設実習Ⅱ指導

■生活福祉専攻

- 生活支援技術A
- 経管栄養演習
- 生活支援技術C
- 生活支援技術（食・衣）

■食物栄養学専攻

- 調理学実習基礎
- 食品学実験
- 調理学実習Ⅱ
- 解剖生理学実験
- 給食管理実習Ⅰ
- 給食実務演習Ⅰ
- 栄養指導実習Ⅰ
- 臨床栄養学実習
- 食品加工学実習

24. 助手・副手は、授業が円滑に行われるよう、担当教員をサポートしていましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	50%	1人
そう思う	0%	0人
強くそう思う	50%	1人

25. 助手・副手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	50%	1人
そう思う	0%	0人
強くそう思う	50%	1人

26. 実験・実習に使う試薬・食材は漏れなく準備されていましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	100%	1人
そう思う	0%	0人
強くそう思う	0%	0人

27. 実験・実習に使う機械・物品等が故障・破損した場合に、助手・副手は適切に対応しましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	100%	1人
そう思う	0%	0人
強くそう思う	0%	0人

28. わからないことがあったとき、助手・副手は寄り添って「わかった」を引き出してくれましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	50%	1人
そう思う	0%	0人
強くそう思う	50%	1人

29. 授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	0人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	50%	1人
そう思う	0%	0人
強くそう思う	50%	1人

集計結果CSV出力

回答期間：2026/03/03(火) 00:00 ~ 2026/03/13(金) 23:59

対象者数：144名 回答者数：52名 回答率：36.1%

集計結果

グラフの表示形式一括変更

棒グラフ

円グラフ

※【令和7年度後期】授業評価アンケート_実習・集中講義

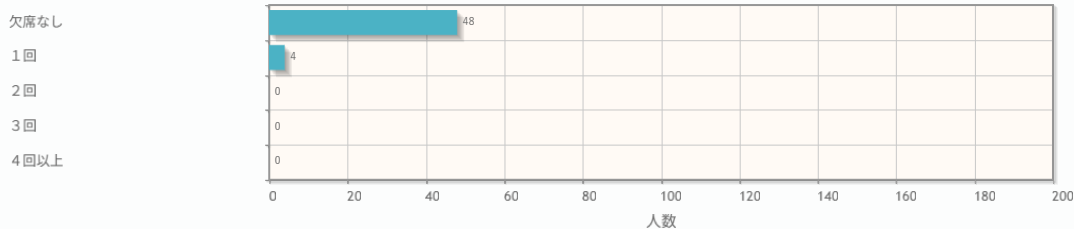
※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて…

1. 1. あなたは授業を何回欠席しましたか。

棒グラフ

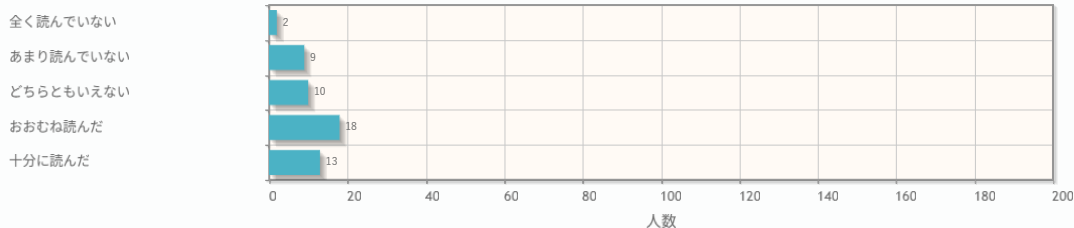
円グラフ



2. 2. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。

棒グラフ

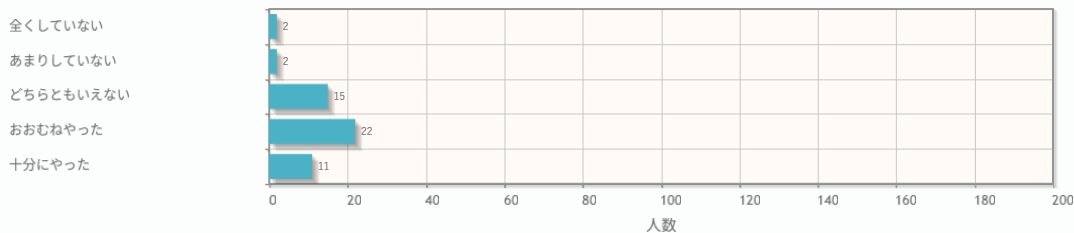
円グラフ



3. 3. あなたは予習や復習を十分にしましたか

棒グラフ

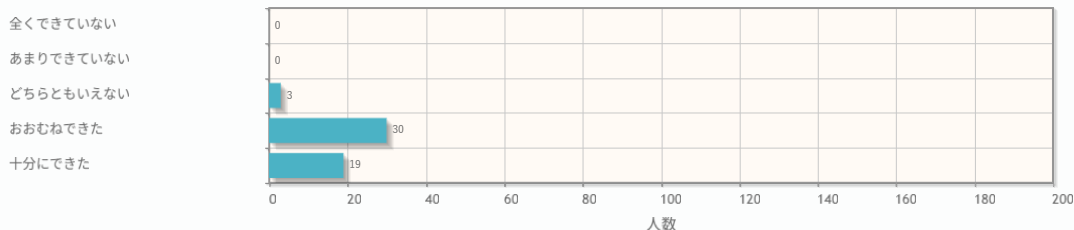
円グラフ



4. 4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。

棒グラフ

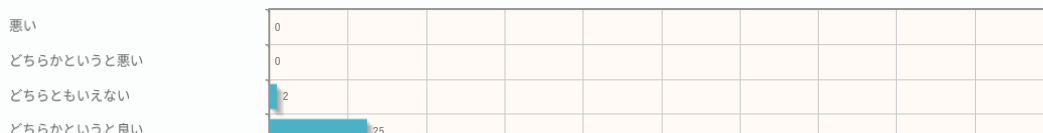
円グラフ

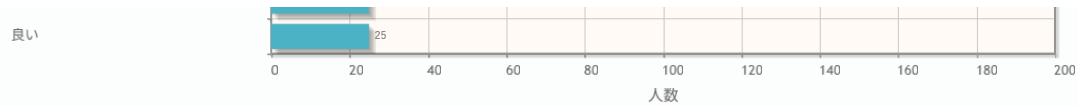


5. 5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。

棒グラフ

円グラフ

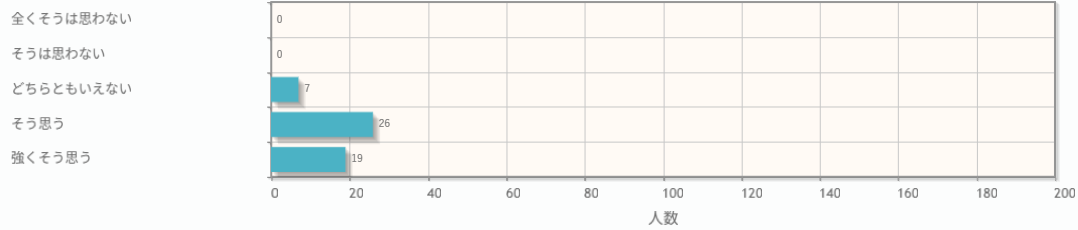




授業について…

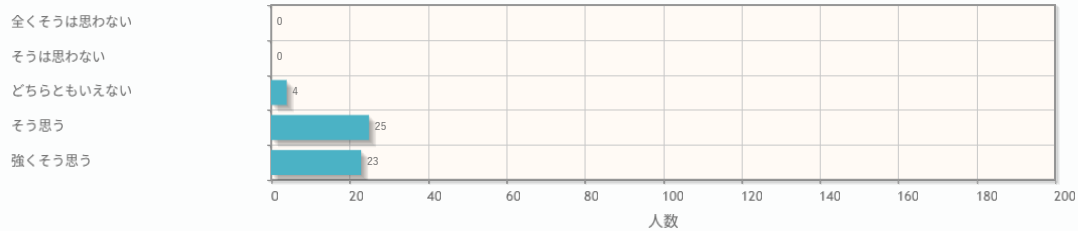
6. 6. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。

棒グラフ 円グラフ



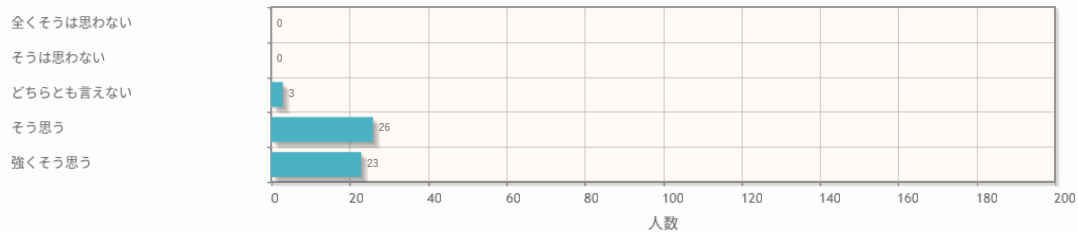
7. 7. 授業はよく準備されていましたか。

棒グラフ 円グラフ



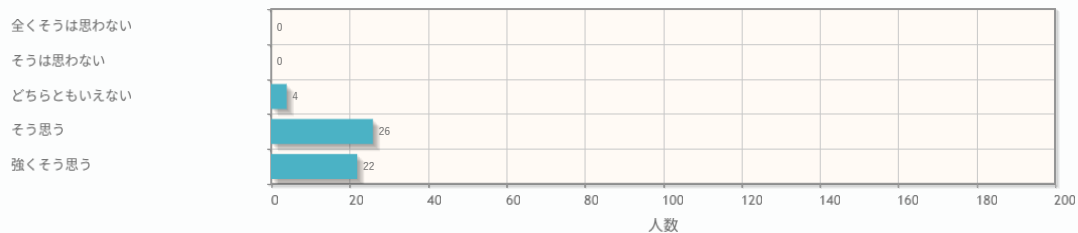
8. 8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。

棒グラフ 円グラフ



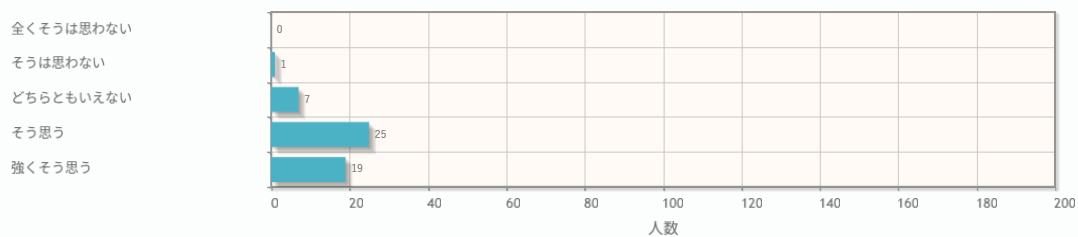
9. 9. 教員の説明は分かりやすかったですか。

棒グラフ 円グラフ



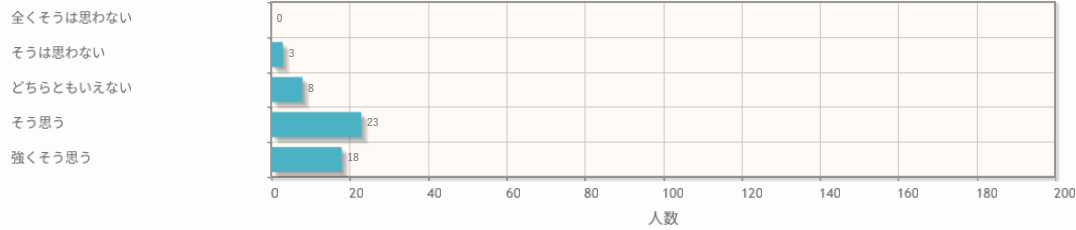
10. 10. 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。

棒グラフ 円グラフ



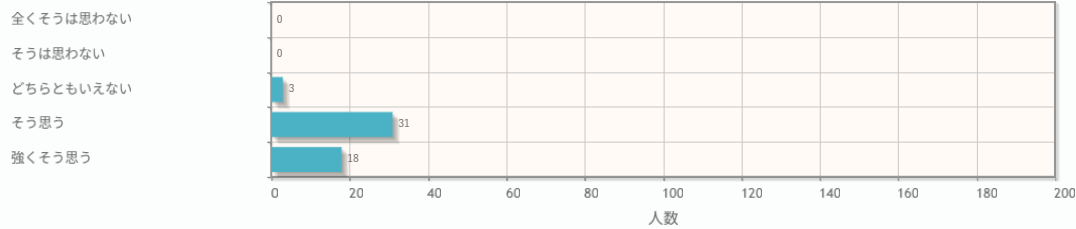
11. 1.1. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。

棒グラフ 円グラフ



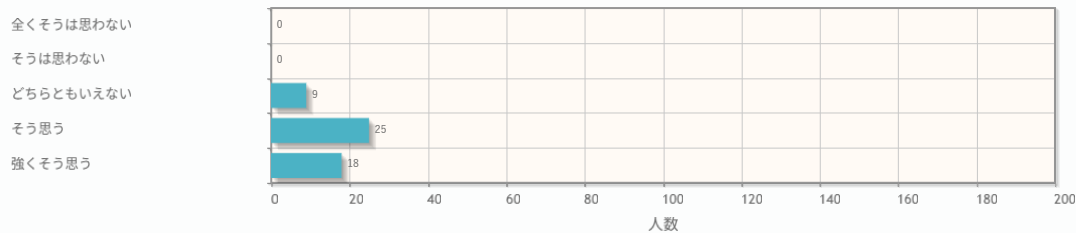
12. 1.2. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。

棒グラフ 円グラフ



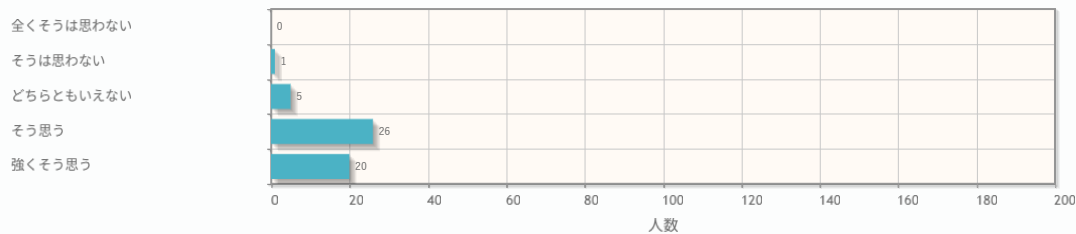
13. 1.3. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの使い方は適切でしたか。

棒グラフ 円グラフ



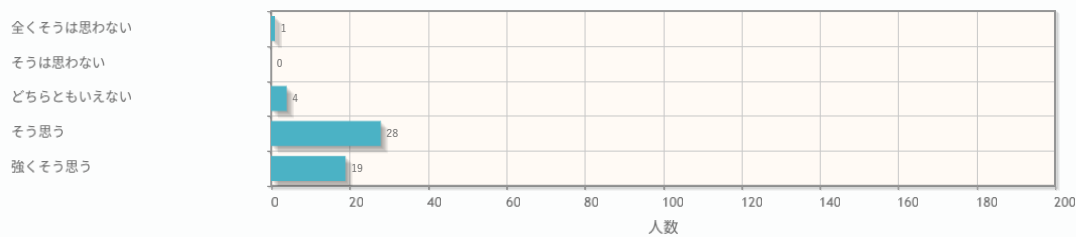
14. 1.4. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。

棒グラフ 円グラフ



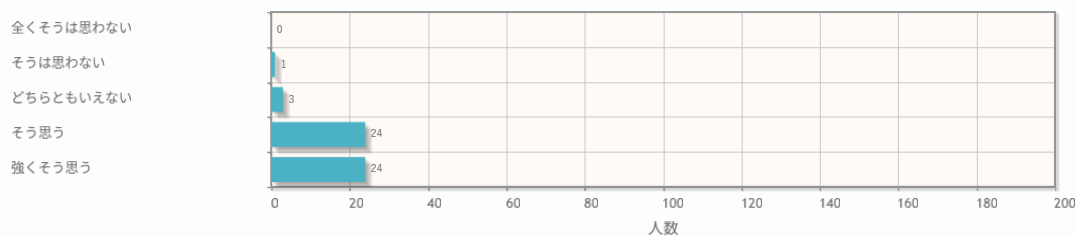
15. 1.5. 教員の熱意を感じましたか。

棒グラフ 円グラフ



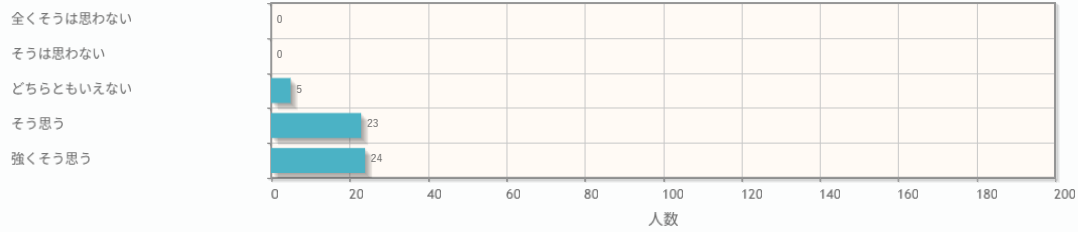
16. 1.6. 教員は、学生に公平に接していましたか。

棒グラフ 円グラフ



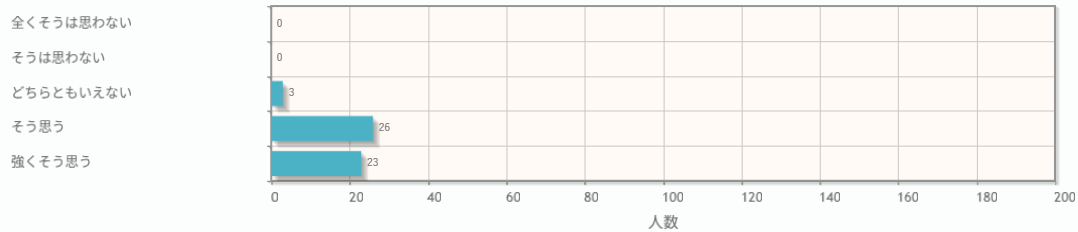
17. 17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。

棒グラフ 円グラフ



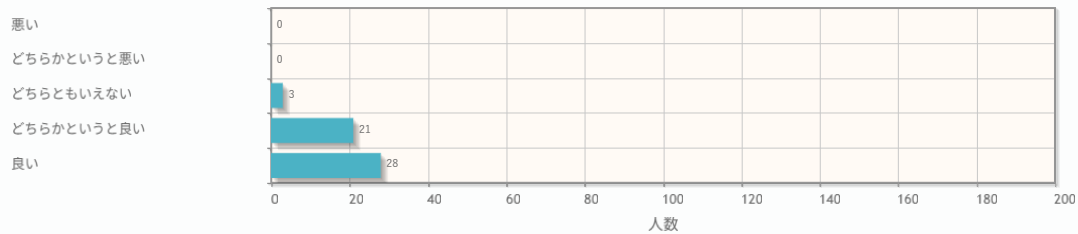
18. 18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。

棒グラフ 円グラフ



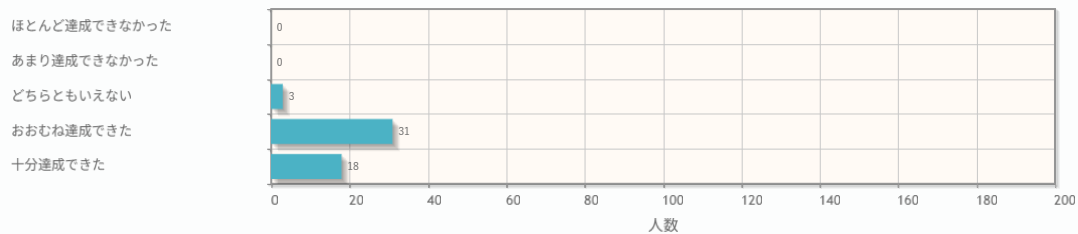
19. 19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。

棒グラフ 円グラフ



20. 20. この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。

棒グラフ 円グラフ



これ以降の設問には児童教育学科・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の方が対象となる授業のアンケートでのみ回答してください。

※対象授業

■児童教育学科

- 幼稚園教育実習Ⅰ指導
- 保育所実習Ⅰ指導
- 子どもの健康と安全
- 乳児保育Ⅱ

■生活福祉専攻

- 生活支援技術B
- 喀痰吸引演習
- 生活支援技術（家事）

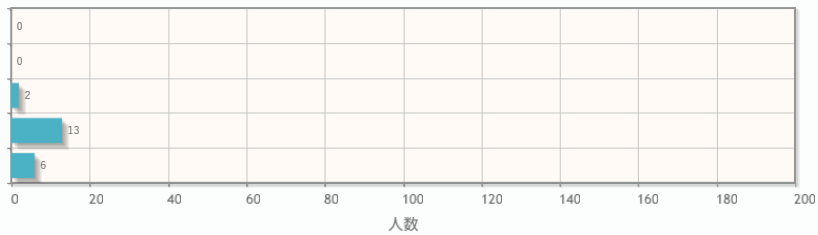
■食物栄養学専攻

- 食品衛生学実験
- 栄養指導実習Ⅱ
- 応用栄養学実習
- 給食管理実習Ⅱ
- 給食実務演習Ⅱ
- 実践調理学実習
- 生化学実験
- 調理学実習Ⅰ
- 教職実践演習（栄養教諭）

24. 2.4. 助手・副手は、授業が円滑に行われるよう、担当教員をサポートしていましたか。【対象授業※のみ】

棒グラフ 円グラフ

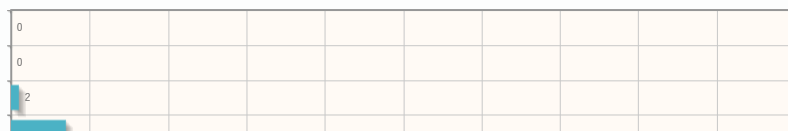
- 全くそうは思わない
- そうは思わない
- どちらともいえない
- そう思う
- 強くそう思う

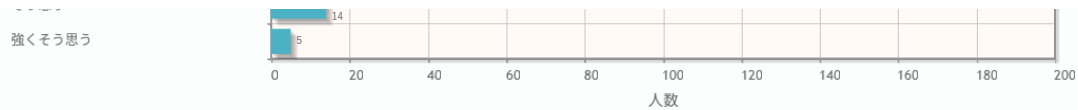


25. 2.5. 助手・副手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】

棒グラフ 円グラフ

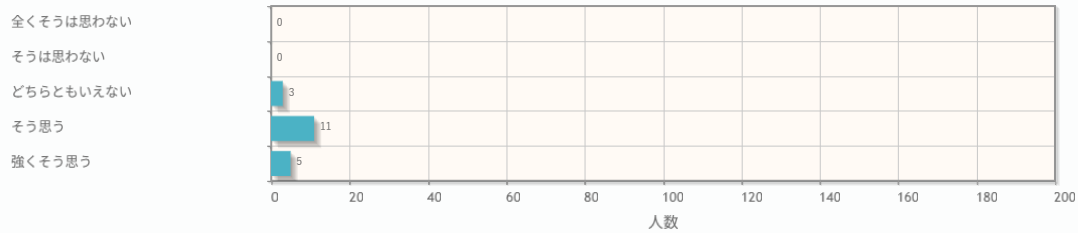
- 全くそうは思わない
- そうは思わない
- どちらともいえない
- そう思う





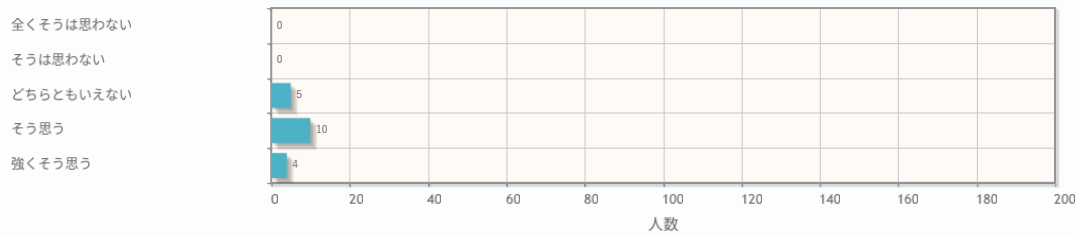
26. 26. 実験・実習に使う試薬・食材は漏れなく準備されていましたか。【対象授業※のみ】

棒グラフ 円グラフ



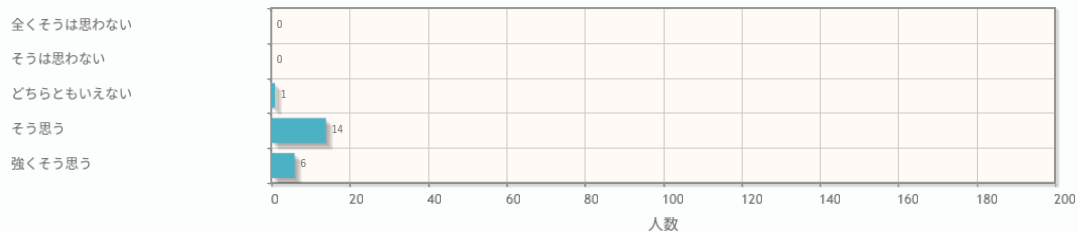
27. 27. 実験・実習に使う機械・物品等が故障・破損した場合に、助手・副手は適切に対応しましたか。【対象授業※のみ】

棒グラフ 円グラフ



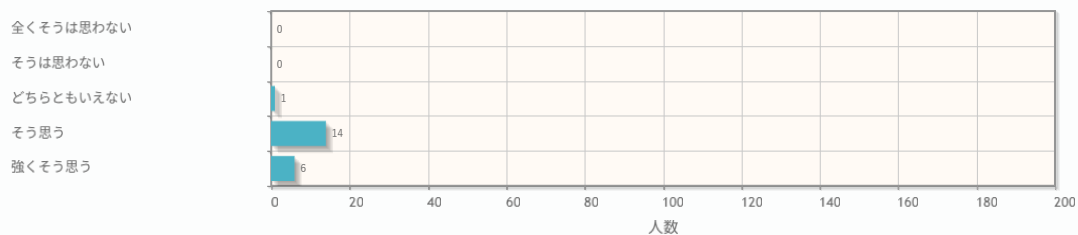
28. 28. わからないことがあったとき、助手・副手は寄り添って「わかった」を引き出してくれましたか。【対象授業※のみ】

棒グラフ 円グラフ



29. 29. 授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】

棒グラフ 円グラフ



集計結果をデータ出力

CSV(UTF-8)

CSV(Shift_JIS)

Excel

ヘッダー行を含む

ダウンロード

2025年度学習の達成度自己評価 (全学科一般教養)

一般教養科目DP

- ①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。
 ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。
 ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。
 ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

2025年度入学1年生 (前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	15	168	4.3	1	0.6%	1	0.6%	9	5.4%	95	56.5%	62	36.9%
②	18	263	4.2	0	0.0%	7	2.7%	22	8.4%	150	57.0%	84	31.9%
③	1	60	4.0	0	0.0%	0	0.0%	14	23.3%	33	55.0%	13	21.7%
④	18	156	4.1	0	0.0%	2	1.3%	23	14.7%	89	57.1%	42	26.9%

2025年度入学1年生 (後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	10	78	4.4	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	47	60.3%	30	38.5%
②	12	129	4.3	0	0.0%	0	0.0%	8	6.2%	71	55.0%	50	38.8%
③	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④	20	172	4.2	0	0.0%	1	0.6%	20	11.6%	100	58.1%	51	29.7%

2024年度入学2年生 (前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	2	14	4.3	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	8	57.1%	5	35.7%
②	5	70	4.3	0	0.0%	0	0.0%	6	8.6%	35	50.0%	29	41.4%
③	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④	2	15	4.0	0	0.0%	0	0.0%	5	33.3%	5	33.3%	5	33.3%

2024年度入学2年生 (後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②	3	82	4.5	0	0.0%	0	0.0%	9	11.0%	27	32.9%	46	56.1%
③	2	32	4.2	0	0.0%	0	0.0%	4	12.5%	18	56.3%	10	31.3%
④	3	10	4.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	70.0%	3	30.0%

2025年度学習の達成度自己評価（児童教育学科）

児童教育学科DP

- ①（教育・保育に必要な専門性）教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。
- ②（課題解決能力）教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。
- ③（豊かな人間性）教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。

2025年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	12	898	4.0	1	0.1%	10	1.1%	164	18.3%	527	58.7%	196	21.8%
②	0	0	0.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③	6	476	4.0	3	0.6%	9	1.9%	73	15.3%	292	61.3%	99	20.8%

2025年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	14	814	4.2	1	0.1%	1	0.1%	90	11.1%	469	57.6%	253	31.1%
②	4	151	4.3	0	0.0%	0	0.0%	14	9.3%	79	52.3%	58	38.4%
③	3	193	4.1	0	0.0%	5	2.6%	30	15.5%	103	53.4%	55	28.5%

2024年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	21	765	4.3	0	0.0%	2	0.3%	78	10.2%	390	51.0%	295	38.6%
②	9	269	4.4	0	0.0%	0	0.0%	8	3.0%	132	49.1%	129	48.0%
③	2	35	4.2	0	0.0%	0	0.0%	4	11.4%	19	54.3%	12	34.3%

2024年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	18	426	4.3	1	0.2%	1	0.2%	53	12.4%	202	47.4%	169	39.7%
②	6	91	4.3	0	0.0%	0	0.0%	7	7.7%	53	58.2%	31	34.1%
③	3	86	4.3	0	0.0%	0	0.0%	6	7.0%	50	58.1%	30	34.9%

2025年度学習の達成度自己評価（生活科学科：生活福祉専攻）

生活科学科生活福祉専攻DP

- ①（専門的知識・技能）介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。
- ②（主体的・創造的な課題解決能力）修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。
- ③（人間関係形成力とコミュニケーション能力）倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。

2025年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	11	64	4.2	0	0.0%	1	1.6%	9	14.1%	33	51.6%	21	32.8%
②	2	11	4.5	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	4	36.4%	6	54.5%
③	1	7	4.7	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	5	71.4%

2025年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	10	21	4.4	0	0.0%	0	0.0%	2	9.5%	9	42.9%	10	47.6%
②	3	5	4.4	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%
③	1	6	3.8	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	3	50.0%	1	16.7%

2024年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	9	36	3.8	1	2.8%	0	0.0%	5	13.9%	29	80.6%	1	2.8%
②	5	18	3.9	0	0.0%	0	0.0%	2	11.1%	15	83.3%	1	5.6%
③	1	4	4.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%

2024年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	7	28	4.1	0	0.0%	1	3.6%	2	7.1%	18	64.3%	7	25.0%
②	8	29	4.1	0	0.0%	0	0.0%	4	13.8%	17	58.6%	8	27.6%
③	2	8	3.9	0	0.0%	1	12.5%	1	12.5%	4	50.0%	2	25.0%

2025年度学習の達成度自己評価（生活科学科：食物栄養学専攻）

生活科学科食物栄養学専攻DP

- ①（食物・栄養に必要な専門性）健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。
- ②（課題解決能力）修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。
- ③（豊かな人間性）食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。

2025年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	13	282	4.1	0	0.0%	7	2.5%	27	9.6%	179	63.5%	69	24.5%
②	1	24	4.0	0	0.0%	0	0.0%	4	16.7%	16	66.7%	4	16.7%
③	2	12	4.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	58.3%	5	41.7%

2025年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	10	199	4.1	1	0.5%	1	0.5%	25	12.6%	114	57.3%	58	29.1%
②	3	55	4.4	0	0.0%	0	0.0%	2	3.6%	30	54.5%	23	41.8%
③	2	16	3.7	0	0.0%	1	6.3%	5	31.3%	8	50.0%	2	12.5%

2024年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	9	93	4.2	0	0.0%	1	1.1%	16	17.2%	39	41.9%	37	39.8%
②	6	109	4.0	1	0.9%	4	3.7%	21	19.3%	48	44.0%	35	32.1%
③	4	49	4.3	0	0.0%	1	2.0%	7	14.3%	17	34.7%	24	49.0%

2024年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	7	84	4.1	1	1.2%	1	1.2%	15	17.9%	42	50.0%	25	29.8%
②	2	38	3.9	0	0.0%	0	0.0%	11	28.9%	18	47.4%	9	23.7%
③	5	43	4.2	0	0.0%	0	0.0%	5	11.6%	26	60.5%	12	27.9%

2025年度学習の達成度自己評価（教養学科）

教養学科DP

- ①（専門的知識や技能）現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。
- ②（コミュニケーション能力）他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する能力を身につけている。
- ③（地域・グローバル社会への理解）地域社会とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った社会性を身につけている。

2025年度入学1年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	9	322	4.2	0	0.0%	1	0.3%	24	7.5%	198	61.5%	99	30.7%
②	2	72	4.0	0	0.0%	0	0.0%	9	12.5%	52	72.2%	11	15.3%
③	3	75	4.1	0	0.0%	1	1.3%	7	9.3%	49	65.3%	18	24.0%

2025年度入学1年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	10	242	4.3	0	0.0%	2	0.8%	18	7.4%	139	57.4%	83	34.3%
②	2	36	4.1	0	0.0%	0	0.0%	3	8.3%	25	69.4%	8	22.2%
③	4	115	4.3	0	0.0%	0	0.0%	5	4.3%	75	65.2%	35	30.4%

2024年度入学2年生（前期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	10	135	4.3	0	0.0%	0	0.0%	8	5.9%	78	57.8%	49	36.3%
②	1	20	4.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	75.0%	5	25.0%
③	6	119	4.4	0	0.0%	0	0.0%	4	3.4%	68	57.1%	47	39.5%

2024年度入学2年生（後期）

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答	①ほとんど達成 できなかった		②あまり達成 できなかった		③最低限 達成できた		④おおむね 達成できた		⑤十分 達成できた	
①	12	104	4.3	0	0.0%	2	1.9%	8	7.7%	55	52.9%	39	37.5%
②	2	57	4.2	0	0.0%	0	0.0%	4	7.0%	40	70.2%	13	22.8%
③	6	41	4.4	0	0.0%	0	0.0%	2	4.9%	19	46.3%	20	48.8%

2023年度_2024年度_2025年度 前期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	
			0	1	2	3	4			5
(1)	あなたは授業を何回欠席(公欠も含む)しましたか。	2023	69.2	19.7	6.9	2.7	1.4		6,127	0.5
		2024	67.9	19.1	7.9	3.5	1.6		4,807	0.5
		2025	68.6	20.1	7.8	2.3	1.2		4,640	0.5
(2)	あなたは『講義要項』(シラバス)をよく読みましたか。	2023		5.6	16.5	23.7	42.0	12.1	6,127	3.4
		2024		4.4	16.8	22.3	44.0	12.4	4,807	3.4
		2025		4.9	14.3	18.6	50.0	12.3	4,640	3.5
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2023		5.9	17.0	29.7	33.5	14.0	6,127	3.3
		2024		3.7	16.1	26.8	38.9	14.5	4,807	3.4
		2025		4.6	17.4	24.4	39.4	14.2	4,640	3.4
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2023		0.3	3.1	13.1	56.6	26.9	6,127	4.1
		2024		0.5	2.2	10.3	57.4	29.5	4,807	4.1
		2025		0.4	1.9	10.9	60.1	26.9	4,640	4.1
(5)	あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	2023		0.1	0.9	13.6	45.1	40.3	6,127	4.2
		2024		0.5	1.0	12.2	46.5	39.8	4,807	4.2
		2025		0.1	0.7	12.6	46.1	40.6	4,640	4.3
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2023		0.1	0.7	17.6	52.2	29.4	6,127	4.1
		2024		0.1	0.4	15.6	52.2	31.6	4,807	4.1
		2025		0.1	0.6	16.3	50.6	32.4	4,640	4.1
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2023		0.0	0.6	5.2	45.1	49.1	6,127	4.4
		2024		0.2	0.5	4.5	44.7	50.1	4,807	4.4
		2025		0.1	0.4	5.3	45.8	48.3	4,640	4.4
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2023		0.2	0.9	6.9	47.2	44.8	6,127	4.4
		2024		0.2	0.7	5.9	46.0	47.2	4,807	4.4
		2025		0.2	0.6	7.0	46.3	45.9	4,640	4.4
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2023		0.3	1.8	8.8	44.6	44.5	6,127	4.3
		2024		0.7	1.1	7.3	44.2	46.6	4,807	4.4
		2025		0.3	1.3	8.1	43.8	46.4	4,640	4.3
(10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2023		0.2	1.7	9.8	46.5	41.7	6,127	4.3
		2024		0.6	1.0	8.8	45.6	44.0	4,807	4.3
		2025		0.3	1.0	8.7	46.1	43.9	4,640	4.3

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	
			0	1	2	3	4			5
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2023		0.8	3.9	14.9	42.9	37.6	6,127	4.1
		2024		0.9	2.2	11.9	43.7	41.4	4,807	4.2
		2025		0.5	2.5	11.7	43.8	41.5	4,640	4.2
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2023		0.3	1.3	7.0	40.4	51.0	6,127	4.4
		2024		0.7	1.6	5.9	42.0	49.8	4,807	4.4
		2025		0.4	1.7	7.4	40.4	50.0	4,640	4.4
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	2023		0.2	0.9	7.1	45.2	46.7	6,127	4.4
		2024		0.5	0.9	6.5	44.1	48.1	4,807	4.4
		2025		0.3	0.8	7.4	44.4	47.1	4,640	4.4
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2023		0.3	1.7	8.1	44.6	45.3	6,127	4.3
		2024		0.3	1.0	6.2	45.3	47.3	4,807	4.4
		2025		0.3	1.0	6.4	45.3	47.0	4,640	4.4
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2023		0.2	0.7	6.2	43.4	49.5	6,127	4.4
		2024		0.4	0.4	5.0	45.1	49.0	4,807	4.4
		2025		0.2	0.4	6.2	41.5	51.8	4,640	4.4
(16)	教員は、学生に公平に接していましたか。	2023		0.2	0.7	5.9	44.0	49.2	6,127	4.4
		2024		0.3	0.5	4.7	43.8	50.7	4,807	4.4
		2025		0.3	0.7	6.0	42.5	50.6	4,640	4.4
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	2023		0.2	0.5	5.9	43.3	50.2	6,127	4.4
		2024		0.4	0.5	5.3	43.1	50.7	4,807	4.4
		2025		0.2	0.4	6.4	43.6	49.4	4,640	4.4
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2023		0.1	0.6	5.5	46.2	47.7	6,127	4.4
		2024		0.1	0.5	5.1	46.5	47.7	4,807	4.4
		2025		0.2	0.7	6.0	45.9	47.1	4,640	4.4
(19)	この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	2023		0.1	0.9	6.6	34.3	58.1	6,127	4.5
		2024		0.5	0.5	6.1	34.1	58.8	4,807	4.5
		2025		0.1	0.6	6.6	35.5	57.2	4,640	4.5
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1～5の5段階で評価してください。	2023		0.1	1.9	14.1	57.4	26.6	6,127	4.1
		2024		0.6	1.1	10.7	58.3	29.4	4,807	4.1
		2025		0.2	1.1	12.0	56.7	30.1	4,640	4.2

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	
			0	1	2	3	4			5
(24)	助手の説明は分かりやすかったですか。【対象授業※のみ】	2023		0.0	0.6	10.4	37.3	51.6	335	4.4
		2024		0.0	0.0	8.3	36.1	55.6	288	4.5
		2025		1.0	1.5	12.2	34.7	50.6	401	4.3
(25)	助手と学生の間にはやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.3	0.6	8.3	38.3	52.5	324	4.4
		2024		0.4	0.7	7.6	35.1	56.2	276	4.5
		2025		0.8	1.3	12.6	33.3	52.1	390	4.3
(26)	助手の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。【対象授業※のみ】	2023		0.7	0.0	8.5	32.7	58.1	272	4.5
		2024		0.0	0.4	6.7	33.3	59.5	252	4.5
		2025		0.6	1.2	13.4	33.5	51.3	337	4.3
(27)	助手の熱意を感じましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.8	0.0	6.4	34.0	58.9	265	4.5
		2024		0.0	0.0	7.5	35.2	57.3	253	4.5
		2025		0.3	0.9	14.0	33.1	51.6	335	4.3
(28)	助手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.6	0.3	9.0	35.0	55.0	311	4.4
		2024		1.5	0.0	6.3	37.6	54.6	271	4.4
		2025		0.5	0.8	12.3	35.1	51.2	367	4.4
(29)	授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.0	0.0	11.0	37.1	51.9	310	4.4
		2024		0.0	0.0	5.9	40.2	53.9	271	4.5
		2025		1.1	2.4	12.0	33.4	51.1	374	4.3

2023年度_2024年度_2025年度 後期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	
			0	1	2	3	4			5
(1)	あなたは授業を何回欠席(公欠も含む)しましたか。	2023	60.2	21.8	11.3	4.7	2.1		6,136	0.7
		2024	65.7	20.1	8.7	4.1	1.5		3,851	0.6
		2025	57.9	22.3	11.0	6.8	2.0		3,422	0.7
(2)	あなたは『講義要項』(シラバス)をよく読みましたか。	2023		5.1	19.1	24.3	38.4	13.0	6,136	3.4
		2024		6.3	16.6	23.1	40.5	13.5	3,851	3.4
		2025		4.6	13.1	19.3	49.2	13.9	3,422	3.5
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2023		4.6	15.7	26.9	36.2	16.6	6,136	3.4
		2024		3.9	14.7	26.4	38.4	16.6	3,851	3.5
		2025		3.7	12.8	24.3	43.4	15.8	3,422	3.5
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2023		0.4	1.8	11.9	54.9	31.1	6,136	4.1
		2024		0.2	1.6	9.7	56.9	31.6	3,851	4.2
		2025		0.3	1.6	9.8	60.3	27.9	3,422	4.1
(5)	あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	2023		0.2	0.8	12.1	44.5	42.4	6,136	4.3
		2024		0.0	0.6	11.3	44.1	44.0	3,851	4.3
		2025		0.2	0.8	12.2	47.0	39.9	3,422	4.3
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2023		0.2	0.4	16.2	48.4	34.8	6,136	4.2
		2024		0.1	0.4	18.0	47.6	33.8	3,851	4.1
		2025		0.2	0.4	14.2	50.9	34.3	3,422	4.2
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2023		0.3	0.6	5.6	43.3	50.3	6,136	4.4
		2024		0.1	0.4	5.0	44.5	49.9	3,851	4.4
		2025		0.1	0.5	4.9	45.6	49.0	3,422	4.4
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2023		0.3	0.8	7.2	43.9	47.8	6,136	4.4
		2024		0.2	0.6	5.7	46.0	47.5	3,851	4.4
		2025		0.2	0.9	6.5	46.0	46.5	3,422	4.4
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2023		0.5	1.4	8.5	43.2	46.4	6,136	4.3
		2024		0.2	1.1	6.1	44.7	48.0	3,851	4.4
		2025		0.2	1.3	7.8	44.2	46.6	3,422	4.4
(10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2023		0.4	1.2	8.1	43.1	47.2	6,136	4.4
		2024		0.3	0.9	6.8	44.4	47.6	3,851	4.4
		2025		0.2	1.4	7.6	46.2	44.6	3,422	4.3

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	
			0	1	2	3	4			5
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2023		0.7	2.0	11.1	41.8	44.5	6,136	4.3
		2024		0.3	1.4	9.6	44.7	43.9	3,851	4.3
		2025		0.6	2.0	9.6	45.3	42.5	3,422	4.3
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2023		0.5	0.9	6.2	40.8	51.5	6,136	4.4
		2024		0.4	1.4	4.5	41.5	52.2	3,851	4.4
		2025		0.2	1.4	5.8	43.3	49.4	3,422	4.4
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	2023		0.4	1.0	7.6	43.2	47.8	6,136	4.4
		2024		0.2	0.7	6.7	43.5	48.9	3,851	4.4
		2025		0.2	0.7	6.0	46.7	46.3	3,422	4.4
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2023		0.7	1.5	6.8	43.3	47.8	6,136	4.4
		2024		0.3	1.3	5.5	44.8	48.2	3,851	4.4
		2025		0.2	1.1	5.9	46.0	46.8	3,422	4.4
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2023		0.3	0.6	5.7	41.7	51.7	6,136	4.4
		2024		0.1	0.5	4.1	43.3	52.0	3,851	4.5
		2025		0.1	0.3	5.9	43.4	50.2	3,422	4.4
(16)	教員は、学生に公平に接していましたか。	2023		0.5	0.7	5.6	42.0	51.2	6,136	4.4
		2024		0.2	0.4	4.3	43.2	51.9	3,851	4.5
		2025		0.2	0.5	5.5	45.0	48.9	3,422	4.4
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	2023		0.3	0.5	6.2	41.7	51.2	6,136	4.4
		2024		0.2	0.2	5.7	42.0	51.9	3,851	4.5
		2025		0.1	0.4	5.6	44.7	49.3	3,422	4.4
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2023		0.1	0.3	5.3	45.3	48.9	6,136	4.4
		2024		0.1	0.5	4.6	45.5	49.4	3,851	4.4
		2025		0.1	0.4	5.4	46.8	47.3	3,422	4.4
(19)	この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	2023		0.3	0.8	6.2	34.5	58.1	6,136	4.5
		2024		0.2	0.4	5.3	36.5	57.6	3,851	4.5
		2025		0.2	0.6	6.0	36.7	56.5	3,422	4.5
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1～5の5段階で評価してください。	2023		0.3	1.0	11.4	55.3	32.0	6,136	4.2
		2024		0.1	0.6	9.8	56.5	33.0	3,851	4.2
		2025		0.1	0.6	10.6	55.2	33.5	3,422	4.2

質問項目		年度	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	
			0	1	2	3	4			5
(24)	助手の説明は分かりやすかったですか。【対象授業※のみ】	2023		0.2	0.2	7.9	37.6	54.1	492	4.5
		2024		0.6	0.0	5.6	41.7	52.2	324	4.4
		2025		0.3	0.0	9.7	42.1	48.0	392	4.4
(25)	助手と学生の間にはやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.6	0.2	5.8	37.3	56.1	483	4.5
		2024		0.3	0.0	5.7	42.2	51.7	315	4.5
		2025		0.3	0.5	9.6	40.6	49.0	384	4.4
(26)	助手の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。【対象授業※のみ】	2023		0.2	0.0	8.0	35.8	56.0	439	4.5
		2024		0.4	0.0	5.0	39.2	55.4	260	4.5
		2025		0.3	0.3	10.1	37.4	52.0	356	4.4
(27)	助手の熱意を感じましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.2	0.0	9.8	37.8	52.2	439	4.4
		2024		0.0	0.0	5.1	45.4	49.5	273	4.4
		2025		0.3	0.0	13.7	37.8	48.2	357	4.3
(28)	助手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.8	0.0	5.9	38.2	55.1	474	4.5
		2024		0.7	0.0	3.9	43.1	52.3	304	4.5
		2025		0.3	0.3	9.7	42.6	47.2	373	4.4
(29)	授業が時間内に終わるよう、助手・副手は教員と適切に連携を取っていましたか。【対象授業※のみ】	2023		0.6	0.2	6.4	40.9	51.8	469	4.4
		2024		0.0	0.3	4.6	41.7	53.3	302	4.5
		2025		0.5	0.8	8.8	42.6	47.2	373	4.4

2025年度「授業公開週間」参観記録 (11-12月実施)

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

* 必須

1. 記入者 (氏名) *

例) 高麗 紫苑

回答を入力してください

2. 参観日 *

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)



3. 参観時間 *

a. 1・2限目

b. 3・4限目

c. 5・6限目

d. 7・8限目

e. 9・10限目

その他

4. 参観科目名 *

回答を入力してください


5. 参観科目担当者氏名 *

複数名の教員で担当している場合や、助手がいる場合、全員記入してください。


回答を入力してください

6. 授業参観を通して感じたことをご記入ください (自由記述) *

回答を入力してください

7. 今後に生かしたい点をご記入ください（自由記述） * 

回答を入力してください

8. その他、授業公開に関して意見などありましたらご記入ください。 

回答を入力してください

Microsoft 365

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Microsoft Forms | AI を活用したアンケート、クイズ、投票 [独自のフォームの作成](#)

このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。 | [利用規約](#)

令和7年度授業参観科目一覧

科目名	開講学科	担当教員 (オムニバス等は参観実施回担当)
データサイエンス概論	全学科	村田和也
英語演習Ⅱ	全学科	中野由美子
英語演習Ⅱ	全学科	勝久愛
AIプログラミング	全学科	村田和也
保育内容（人間関係）の指導法	児童教育学科	今村幸子
情報メディアの活用	児童教育学科	青木俊介
子ども家庭福祉	児童教育学科	平本譲
国語	児童教育学科	小沢貴雄
保育内容（表現）の指導法	児童教育学科	中村礼香
音楽科指導法	児童教育学科	水谷いつみ
保育・教職実践演習	児童教育学科	内田豊海
幼児理解	児童教育学科	篠原美穂
読書と豊かな人間性	児童教育学科	小沢貴雄
小学校教職実践演習	児童教育学科	萩原香織
保育内容総論	児童教育学科	檜林衿子
子どもの家庭支援の心理学	児童教育学科	瀧井綾子
介護総合演習Ⅳ	生活科学科	中森美恵子
喀痰吸引演習	生活科学科	浜崎眞美・岩元瑞恵
WELOVE鹿児島！	生活科学科	改元香
障害の理解Ⅱ	生活科学科	福留弘
介護の基本Ⅳ	生活科学科	中井康貴
介護ホスピタリティ	生活科学科	田代瞳・京田景子
チームマネジメント	生活科学科	川崎友義
栄養指導実習Ⅱ	生活科学科	改元香・純浦めぐみ
給食管理実習Ⅱ	生活科学科	児玉むつみ・純浦めぐみ
認定給本土養成講座	教養学科	川戸理恵子
ビジネスワーク	教養学科	石田もとな
現代社会学	教養学科	倉重加代
人間関係とコミュニケーション	教養学科	園田美保
デジタルビジネス概論	教養学科	近藤朗